

CASBEE® 新築 [簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八幡中央病院増築	階数	地上4F
建設地	京都府八幡市八幡五反田39-1	構造	RC造
用途地域	第1・2種住居地域、法第22条の指	平均居住人員	93 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年5月 予定	評価の実施日	2012年5月18日
敷地面積	2,079 m ²	作成者	藤田幹人
建築面積	670 m ²	確認日	2010年7月10日
延床面積	2,609 m ²	確認者	石河 幸伸



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B⁻: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: N.A.

③ 上記+②以外のオンサイト手法: #VALU

④ 上記+オフサイト手法: #VALU

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 人や環境にやさしい設計を行う。		その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 患者さんにやさしい設計を行う。 (明るい病室、日射制御の高い窓、東西で空調を別系統)	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 使いやすく、維持管理に配慮を行う。(維持管理しやすい内外装材、耐力量を少なくする、給水ポンプを非常用発電機の負荷として一般停電時に配慮する)	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 まちなみに対して配慮を行う。(既存建物に合わせたデザインとする。)
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 環境負荷の少ない建物となるように設計を行う。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 環境にやさしい材料を導入する。 (リサイクル材の使用、ノンフロン製品使用、不活性ガス消火剤の使用)	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地外環境に負荷をかけない設計を行う。 (駐車台数確保、騒音・振動規制法の順守)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい